時事新報定價
時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價遞送料廣告料は左の如し
一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓〇月曜日休刊
〇時事新報社ヨリ直接ニ郵送スルモノハ右ノ價ノ外ニ一箇月十三錢ノ割合ヲ申受ク
時事新報廣告料(前金)

一行五號活字仕四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行一箇月	十三錢	十一錢	十錢五厘

本社へ寄稿に付
東京府下を始め各府縣に通信社あるものありて曩より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を飾るより各社同一の記事を掲ぐるみと寡からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は適する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論説を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報

東京士人の生活

今の東京に住居する官員又は紳士紳商と稱する人々は多くは維新後に各地より居を移したるものにて元來江戸出生のものとは其だ稀なる可し是等の人々みな即ち今の東京士人なれども扨その士人の生活の有樣を察するに我輩の所見に於ては當を得ざるもの甚だ多きが如し德川幕府の時代に江戸は全國の繁華を集め殊に數百年來太平の餘澤にて上下ともに花車風流を專とし春花秋月物見遊山に餘念なく殆んど人間界の快樂を極めて人生の艱難を知らず禍の最も恐るる可き火事の如きも之を江戸の花と名け却て小民の賑と爲りて益々商賈の繁昌を致し「錢一つ賣れぬ日はおし江戸の花」と唱へたるは即ち當時の有樣おりき是時に當りて各地方の人々が參勤交代の爲め又は其他の事を以て江戸に來るものは恰も生れながらにして極樂界に入りたると同じく烟花風月たゝ其遊を縱にして以て此上もなき快事と爲し之を江戸の土產として鄉里の人に誇る者もあるきに非ず即ち當時地方人の江戸に來るは一世一代の出來事にして其一身に取ては千載の一遇とも云ふ可き程の次第なれば平生の生活は所謂御國風にして極て質素簡單なるに似ず千歲の機會に一遇して極樂界の快樂に狂するも亦謂れなきに非ざるなり今の東京は即ち昔の江戸にして維新革命の後は大に其體面を改めたれども花車贅澤の風習は一國の首府たる中央都會に免れざるの數なるか近來は益々その甚しきを加へて德川太平の時代にも劣らざるの景況を呈し茲に住居する士人の有樣を見れば官員と云ひ紳士と云ひ尙ほ其以下の後進書生輩に至るまでも衣食住の有樣は都て分外に逸して餘の貴きを知らず入るを計らずして出るを爲すものの如し蓋し此輩の人々は偶然に故國を出でゝ偶然に東京の人と爲り花の都を見て依然たる當時の極樂界と心得、却て今は永住の身にして一時の客に非ざるの實際を忘れ所謂千歲一遇の快樂を永久にせんとするの誤想より斯る狂態を演ずるものおらんと雖も一生の經ひ出にて極樂界に遊びたる時と既に其地を永住の場所と定めて一身の計を爲すの今日と境遇の異なるは現に其人々の身に實驗したる田舍の生活を回想しても今の計の非なるを發明し今吾故吾相比して轉た赤面に堪へざる現んや其今吾の計も分外に逸して前途の運命危きに於てをや益々赤面の至りなる可し又往時の江戸全盛の日と雖も花車風流の贅澤に狂したるものは三百年の太平に文恬武熙に馴れ果てゝ其本性を失ひたる旗下の一類か若しくは其餘澤に浮世の榮華を受けたる御用商人の輩に非ざれば適ま地方より江戸に來り一時の快遊を試みたる者共にして眞實眞面目の生活を爲して業を營む者は生來都下に住むと雖も斯る狂態に及びたるものは ある可らず如何とおれば人間營生の實際と極樂々國の快遊とは兩立す可らざるものおれば なり左れば今の士人流にして自から改むる所を知らざるに於ては早晩歓、極まり哀、生ずるの末路に到着す可きみと數理に於て免れざる所おれども我輩の所見を以てすれば其人々の浮沈盛衰の運を別にしても更に大に憂ふ可きものあるが如し凡そ一國の强弱は其國民の心身如何に由るものにして國民個々の心身惰弱なるときは國勢の隆盛は得て望む可らず而して人の心身をして惰弱あらしむるの原因は花車贅澤より甚だしきはなし彼の多年涵養の氣象を以て關ヶ原の一戰に天下を略取し德川幕府の基を開きたる三河武士の士風を腐敗せしめたるは三百年間太平の餘澤に外ならず即ち今の東京人士が各地方より起り政治上に實業上に彼等に代りたるは恰も其心身の惰弱に乘じて之を倒したるものおり幕府滅亡王政維新は國內の更迭に過ぎざれども今後外國との交際も益々頻繁に赴き內地雜居等の行はるゝ其時期に當り若しも我國にて政治社會に實業社會に要衝の地位に當るものが次第に心身の惰弱を致し更に子孫に遺傳して其弊を極むるに至るときは或は一國の獨立に關して窃に杞憂に堪へざるものなきに非ず今日より大に戒しむ可き所のものおり左れば東京人士の生活の有樣は單に一身一家の爲めのみならず國家獨立の點より見る可しと雖も詳細は次號に讓り我輩は兎に角に今の東京の士人が生活の有樣を一變して自身及び子孫の爲めに心身の活潑健康ならんみとを勉むるは獨り一身一家の幸福のみに止まらざるを信じ敢て一言するものなり

官報

○大藏省令第二十五號
明治二十二年十二月當省令第十八號高知本金庫所屬支金庫地名中大篠ヲ來ル十一月一日ヨリ後免ト改ム
明治二十四年十月二十四日 大藏大臣伯爵松方正義
○大藏省告示第三十四號
高知本金庫所屬大篠支金庫ヲ來ル十一月一日ヨリ長岡郡後免町ニ移シ後免支金庫ト改稱ス
明治二十四年十月二十四日 大藏大臣伯爵松方正義
○陸軍省告示第十號
明治二十五年陸軍各兵科現役士官候補生志願者學科試驗格例、陸軍幼年學校生徒志願者學科試驗格例、陸軍一年志願兵志願者學科試驗及ヒ合格格例左ニ志願者心得ノ通リ
明治二十四年十月二十四日 陸軍大臣子爵高島鞆之助
以下志願者學科試驗格例并心得書略ス

雜報

○衣笠山行啓の御模樣 皇太后陛下には去る二十二日午前九時御出門同九時十五分京都堀川元誓願寺下る川嶋甚兵衛氏の織物工場へ御着あらせられ御徒步にて陳列場に入御、錦、繻珍、緞子等の新製品數百點を御通覽の後御座所にて暫時御休憩夫より工場機織の實況を御覽あらせられ今回同場主が東京より取寄せ鑄造したる茶室(此茶室は第三回勸業博覽會の開期中當て皇太后陛下の御休憩あらせられたる建物にて道安の好みに模擬したるものおり)に入らせられ直に今回宮內省へ御買上におるべき奏祭の綴織及び彦根屏風に擬せる綴織等を御覽あらせられ同九時四十分御發輿同十時十五分等持院に御立寄住職の先導にて御徒步、唐門より入御御座所にて御小休の後寶物を御覽あらせられ同十時四十分御板輿に召させられ衣笠山に御登山、山腹に殿たる御座所に着御暫時御休憩の後御中食を召させられ夫より午後二時過まで御採菫あらせられ御機嫌麗しく再び御座所へ入御、御問の物を召し上らせられ供奉員及び行啓掛員へも酒肴を賜はり三時二十五分御發輿等持院の門內にて御馬車に召し替へ午後四時還啓あらせられたり

○大坂商業會議所の總會 大坂商業會議所は去る二十二日午後七時より會員總會を開き前會に於て議決せし米國大博覽會の出品に對し帝國議會に向け該費用を速に決議せられん事を建議するの決議案に就て法橋養作氏の附帶建議則ち政府特撰の博覽會事務局員ある評議員中へ各商業會議所會員一名宛を互撰し評議會に參同せしむる決議は役員會に於て審議を遂げたるに此決議は勅令第五十二號臨時博覽會事務局官制第四條の規定則ち評議員の撰定は事務局總裁に一任しあれば之を貫徹せんには該勅令の一改正を請願せざるを得ずとの事を發見したれば法橋氏の建議に對する議決の項は東に取消す事に決し次に同會議所に係る市の步一稅額を題決し又法橋氏が前會に建議せし大坂府市部地方稅中營業稅并に雜稅中營業割の賦課法は東京其他府縣に比較せば大坂の商業者は甚だ過重の負擔なり故に本會より調査委員を撰出し賦課法を調査し府市會に建議し改正せんとする議題に就て議せしに斯る事柄は本會議所の議す可きにあらずとの廢案說と原案維持の二說に駁れ中々八ケ間敷き論爭ありしも採決に至り多數を以て調査する事に可決し直に同委員の投票を行ひたるに北村正次郎、法橋養作、五百井長平、播本孝良、松本重太郎の五氏當撰し續て農商務省より諮問の職工條例に關する件に就き議事を開きたるも商業會議所條例第十四條に依り傍聽を禁じたれば其詳細は知る由おけれども結局調査委員を撰み報答する事に決し其委員には近藤傳兵衛、龜岡德太郎、野田吉兵衛、今西林三郎、法橋養作の五氏特別會員より砂川雄峻、三谷航秀の二氏當撰したるも近藤氏は固辭したるに付品川衛夫氏之に代れり次に輪出稅全廢の建議案も同じく議に決し廢案に決し廢案を側きしに全廢案に決し

○大坂私立衛生會長の撰�With 廿二日午後三時より同地に於て出席員は七十餘名にして付後任者の撰擧を行ひたるに次に評議員三名の補欠の長與專齋氏も臨席して散會したるよし

○河邊馬車鐵道會社 兵庫郡三田に達する河邊馬車鐵道會社は伊丹町迄凡四哩間は此頃馬車の構造は東京馬車鐵日々の乘客四五百に下らず滝田を經て三田に達せは は何收穫期の終り次第なり

○歌舞伎座の略筋書 (○三幕目 明石與治兵衛が此頃ふさいで本舞臺都て漁師內の體爰 持へにて麻を績て居る孫伊丹の新太郎は四年前に家を出て今歸り道に聞た咄には 子分源藏平吉は仕事より居るとい爰へ代官役人 に付き急に御登りなさるが太閤樣の御船をす おいと咄をしてはゐる跡 與治兵衛が此頃ふさいで 伴の新太郎は四年前に家 事て居る子供はおとつさ せがひおせんは孫に飴 出世をしたと喜ぶ與治兵 の方がいかゝ致して武家 今は太閤殿下に侍づう一 小西飛彈守と名を改めた なせし罪は偏に御許し下 聞て飛彈守と聞ては勘當 朝鮮の生れにて金明石と りは我秘藏の書類を大閤 せしと怒りと、飛彈守にな 出てゆけといふおせん是 飛彈守おせん子供を追ひ出 げては入る與治兵衛は跡 連れ添ひし女房を離縁な せしは堅すの役目を幸ひ 鮮國の申わけと仕度をす 御離縁の場舞臺は都て御 り上げたる體樣の內より 殿下は刀を杖に出て岩に ひ出て切り付ける大閤振